

明治以降の鉷石名について

吉野 政治

〔要旨〕 西洋鉷物学の移入によって始まった我が国の鉷物学に

おいて、最初の困難な課題の一つは和語、漢語、外来語、およびこれらの混種語が存在した鉷物名を一つに定めることであった。その最初の試みは小藤文次郎他編『鉷物字彙』（明治二十

三年〔1890〕刊）である。その書で選定された鉷物名を語種に

よって分類すると、漢語がその七割程を占める状態であったが、それから八十五年後の森本信男他編『鉷物学』（昭和五十年〔1975〕刊）では外来語が逆転して半数以上を占め、編著者は将来は外来語名を使うことが望ましいと述べている。しかし、

その書に用いられている漢語名の多くは現在もなお用いられている。これは効果的に用いられている漢語語基の働きによるものであり、将来も漢語名は用いられるものと推測される。

〔キイワード〕 鉷石名 語種 漢語語基 『鉷物字彙』『鉷物

学』

はじめに

西洋伝来の概念や事物名を翻訳することの困難さは江戸時代の蘭学者たちの訳述書を読むことで理解することができる。明治時代の洋学者たちはその努力の結晶を利用できる立場にあっただけ恵まれていたとも言えるが、明治十年代頃に、それぞれの学問分野における術語集を編纂する気運が起こった時には、いわゆる国字問題が沸き上がっており、その事業も簡単なことではなかったようである。小藤文次郎・神保小虎・松島鉷四郎共著『英独和对訳 鉷物字彙』（明治二十三年〔1890〕刊。以下『鉷物字彙』と略す）に次のように述べられている。

字書ヲシテ一ノ書籍態ト為サンカ、勢ヒ難詰ノ漢字ヲ用キザルヲ得ズ。通俗ナラシメンカ、節用伊呂波字引ノ如クナラザルヲ得ズ。何レヲ取ルモ一方ノ人ヲ満足セシムレバ一

方二不本意ナルハ蓋シ勢ノ免レザル処ナリ。剩工あまざ当時漢字教育ノ迂闊うがくニシテ実用的ナラザルヲ大ニ弁論スル人アリ、羅馬字會將まじ二起ラントシ、其反動トシテ又仮名ノ會創立ノ企くわだてアリ。当時社会ノ風潮益ますます雜駁ヲ極メタリ。之レ此事業ノ難洪ナリシ由縁ナリ。

特に地質学や鉱物学は、蘭学では見るべき研究はなく、明治に入つて新たに研究が始められた分野であり、一つの鉱物に対して存在する複数の名称から術語として一つを決定する作業などを併行して行く必要がある、「字彙」の編纂は、他の分野より困難なことであつたものと推測される。日本初の鉱物学教科書である和田維四郎の『金石学』（明治九年〔1876〕成）に、
 鉱物名が一つに決定されたものは少なく、別名が列挙されていることが多いのは、そうしたことを反映しているものと思われる。その後日本においてどのような議論がなされてきたかは不明であるが、国際的には一九五八年に結成された国際鉱物学会（International Mineralogical Association）で「新鉱物および鉱物名に関する委員会」（Commission On New Minerals and Meneral Names）が設置されている。しかし、新鉱物種の認定や鉱物種の整理などが行われる際に求められる資料の一つで

ある名前に関しては、動植物学におけるリンネの二名式命名法のようなものはなく、命名と語源の説明だけが求められただけのようなのである（注①）。したがつて、現在においても、日本の鉱物名には和語、漢語、外来語、そしてそれらの混種語が併存している状態にある。しかし、それらの用いられ方にも一定の原則といったものが、おのずと成立しているように見える。本稿ではその原則がどのようなものであるかを明らかにしたい。

1 小藤文次郎他編『鉱物字彙』の術語の分析

鉱物に関する術語を集めたものとして最も早いのは和田維四郎の『金石対名表』（明治十二年〔1879〕刊）である。この書は先に紹介した『金石学』の附録として出されたものであり、一つの石について和語名、漢語名、外来語名が示されているものが多くあるといった状態である。その翌年に村上瑛子の『鉱物字類』が出されているようであるが、本稿の筆者は見る機会をいまだ得ない。ただ、『小学読本』に出る鉱物用語を解釈したものとされ、命名について一定の方針を有していたことが窺えるものではないと推測される。本節で紹介する『鉱物字彙』

はそれらに次ぐものである。この書では原則として一つ術語が示されており、術語の統一を図ろうとした最初の著作と見ることができよう。この著作に用いられている術語の国語学的分析は、既に塩澤和子氏によってなされているので（『鉱物字彙』の語構成）昭和五十六年度文部省科学研究費補助金特定研究成果報告書）、ここではこの論文を要約する形で、『鉱物字彙』の術語の特徴を説明することにした。ただ、塩澤氏の調査は、「圧起越歴」^{エレクト}「暗明」^{エレキ}「分散」^{エレキ}「長軸」などを含む全ての術語を対象としたものであり、本稿では改めて鉱物名に限定して再調査し、気づいたことを、「なお」の語以下で補足することにする。

語種 『鉱物字彙』に採用されている術語には和語、漢語、外来語、混種語の四種がある。漢語が圧倒的に多く、混種語がそれに続き、和語と外来語は非常に少ない。塩澤氏の調査によると、その異り語数の内訳は次の表のとおりである。

%	異り語数	見出語	
		単語	句
2.4	21	和語	
74.0	622	漢語	
21.0	181	混種語	
2.4	21	外来語	
0.2	2		句
100	847		合計

なお、右の比率は鉱物名に限っても、ほぼ同様である（注②）。また、鉱物名に用いられている外来語は

安質母^{アンチモン} (Antimony)・ベスビアン (Vesubianite)・ビスマス (Bismuth)・ゲルコン (Zircon)・コンドロゼット (Chondrodite)・メアシャーム (Meerschaum)・スカボリット (Scapolite)・ウルフラム (Welframite)

である。

混種語の内訳は次のとおりである。漢語を含むものは合計百七十六語となり、混種語においても漢語の勢力は無視出来ない。

- ① 和語と漢語（あわソーエン・泡蒼鉛） 51語 28%
- ② 外来語と漢語（ウラニウム華） 124語 69%
- ③ 和語と外来語（ゴムすくも・護謨膏風） 5語 2.5%
- ④ 和語と漢語と外来語（針テルル鉱） 1語 0.5%

なお、鉱物名に限ると、右の比率は②が少し高くなるが、ほぼ同様である。また②と③に用いられている外来語は、

アストラカン・アマゾン・アンモニア・安質母^{アンチモン}・安質母^{アノモニア}・イリジウム・ウラン・ウルフラム・カイニト・加里^{カリ}・クローム・コバルト・カドミニウム・サーラ・スピネル・スポカリト・ソーダ・ストロンシウム・セレーン・セール・スピネル・チタン・テルル・ザルコン・土耳其^{トルコ}・ニッケル・バナジウム・風信子 (Hyacinth)・パラジウム・満俺^{マンザ}・メルシヤーム・ラインである。

語構成 漢語語基は次のように分類される。

一字漢語語基

a 自立語基 13 酸 密 砒 稜 晶 柱 面 鉛

塩 金 銀 錐 鉄

単立 2 酸 密

前接 2 砒ニッケル鉱 稜コバルト鉱

後接 3 集片晶 正軸柱 双晶面

前後接 6 鉛重石・塩化鉛 塩銅鉱・舍利塩

金緑玉・パラジウム金 銀毒砂・

b 結合語基 108 (以下用例は一部のみ)

テルル銀 錐輝石・八角錐 鉄石 英・蓆酸鉄

前接 80 吟鉛鉱 黃血石 介褐炭 角鉛鉱

褐赭土 肝水銀 貴橄欖石 輝沸石 偽青玉 珪孔雀石 月長石

紅榴石 硬緑泥石 磁鉄鉱 臭石 英 重方解石 燭黒炭

後接 22 重鉛華 試硬器 二色鏡 緑柱玉

車骨鉱 波及軸 粘土質 金紅砂

前後接 6 集片状 多色性 正方櫛

灰硝石・硼砂灰 石鍾乳・魚眼石

炭鉄鉱・瀝青炭 銅雲母・満俺銅

磐楮土・満俺礬 板温石・珪藻板

二字漢語語基

a 自立語基 167

単立 113 映像 鉛鉱 灰華 角銀 完面

螢光

前接 13 空晶石 斜軸柱 対称面 長軸錐

電気石

後接 35 セレン硫黄 絹雲母 変質仮晶

木化石

前後接 6 亜鉛鉍・肝臓亜鉛 硼酸灰・方硼

酸

b 結合語基 252

前接 172 塩化鉛 黄輝泡石 灰鉄柘榴 褐

鉄粒

後接 65 同質異像 顕微化学 植物仮像

濃紅銀鉍

前後接 15 温石絨・板温石 屈折率・重屈折

一字の漢語語基では前接するものが最も種類が多い。これは

修飾機能を持ち、次のような意味を表すものが大勢を占める。

類用されるものをゴチックで示す。

色彩：吟(紫)・黄・火・褐・肝(肝臓色)・月・紅・

黒・翠・青・赤・透・燈・乳・白・黝(あおぐ

ろ)・藍・緑

光沢：輝・日(反射光で耀く)・水

形状：介(介殼状)・束(束状態)・団(球状)・方(四

角)・簾(すだれ状)・針(細い糸状)・塊(塊

状)(注③)

模様：細

性質：硬・軟・磁(磁力がある)・陶(煉瓦のように硬

い)・泥(粘土質)・重(重土)

成分：硅(硅酸)・臭(臭素)・水(水素)・水(海

鳥の糞)・木・灰(カルシウム)・菱(炭酸石)

(注④)

価値：貴・偽

前接するものは英語を逐語訳したものが多く、語基と原語と

が対応している。例えば「吟銅鉍」Purple Copper Ore「偽

燐灰石」Pseudo apatite「褐硫塩」Brown Salt「簾石

Indigolite「肝鉄鉍」Hepatic Pyrite「臭塩銀」Bromite「輝

黒炭」Glance Coal「水滑石」Hydrotalcite「泥鉄鉍」Clay

Iron Ore」など。

後接する一字の漢語語基は種類が少ないが、造語要素として

頻度が高く、主としてカテゴリーを示す機能を担っており、次

のように整理できる(前・後接するものを含める)。

鉍物の種差……華・玉・鉍・土・粒・石・炭

形 状……櫛・体・板・状・條
 成 分……灰(石灰)・銅・礬(硫酸銅)

前・後接する語基は、灰・石・炭・銅・礬・板の六種であるが、このうち、「灰」と「銅」は前接が多い。「石」は「石鍾乳」以外は後接し、延べ語数の最も高い語基である。

二字の漢語語基の特徴は次のようにまとめられる。

2字の漢語語基には、「雲母」「亜鉛」のように分解困難なものと、「鉛・黄」「灰・華」のように分解可能なものがある。鉱物用語には後者の方が多いが、これは訳語の造語法と大いに関係する。次に具体例を示す。

a. 映|像 Reflected Image 角|銀 Horn Silver
 (下略)

b. 完|面 Holo (全) Hedry (面) (中略) 重|石
Tung (重云) sten (石)

a. は、原語に漢字1字を対応させたもの、b. は、原語を分解し、その構成要素に漢字1字を対応させたものである。鉱物用語を新たに造語する際、語基を基にして(1字漢字が1語基に相当)「語基+語基」の形で訳語を増やしていったことが考えられる。

3 森本信男他穂著『鉱物学』の鉱物名

本節では『鉱物字彙』から八十五年後の昭和五十年〔1975〕に刊行された森本信男・砂川一郎・都城秋穂著『鉱物学』に用いられている鉱物名について調査した結果を示す。

同書の「鉱物名索引」によると本書には一〇四六の鉱物名が用いられているが、それらを語種によって分けると次のようになる(傍線を付した部分は同書では平仮名で表記されているが、漢字表記に直して掲げる。このことについては後に論じる)。

3-1 用例

A 和語(六語)

霰石・螢石・霞石・楔石・小藤石・神保石

B 漢語(一五一語)

蔷薇輝石・直閃石・長石・中沸石・濁沸石・電気石・毒重石・銅藍・塩素燐灰石・沸石・弗素燐 灰石・普通角閃石・普通綠簾石・岩塩・頑火輝石・擬珪灰石・銀鉄明礬石・白鉛鉱・剥沸石・白榴石・白鉄鉱・白雲母・斑銅鉄・

玻璃長石・砒四面銅鉍・翡翠輝石・砒鉄鉍・方鉛鉍・方沸
 石・方硼石・方解石・方珪石・方輝銅鉍・硼酸石・硼砂・
 水晶石・蛇紋石・磁硫鉄鉍・磁鉄鉍・十字石・重十字沸
 石・準長石・準輝石・重晶石・灰長石・灰硼石・灰十字沸
 石・灰重石・角閃石・橄欖石・滑石・褐鉛鉍・褐簾石・珪
 褐石・鷓冠石・珪線石・輝安鉍・輝銅鉍・輝沸石・輝銀
 鉍・金緑石・堇青石・金雲母・輝石・輝水鉛鉍・紅亜鉛
 鉍・紅柱石・銅玉・黄玉・黒銅鉍・黒雲母・金剛石・高温
 型石英・紅簾石・水長石・硬緑泥石・硬石膏・孔雀石・苦
 灰石・鏡鉄鉍・礬石・水礬土石・水滑石・明礬石・鉛重
 石・濃紅銀鉍・黄銅鉍・黄鉛鉍・黄鉄鉍・藍銅鉍・藍閃
 石・藍晶石・藍鉄鉍・鱗珪石・菱亜鉛鉍・菱沸石・緑泥
 石・菱苦土鉍・緑塩銅鉍・緑鉛鉍・緑簾石・菱鉄鉍・硫砒
 銅鉍・硫砒鉄鉍・硫酸鉛鉍・石墨・赤銅鉍・石英・石黄・
 赤鉄鉍・石膏・閃亜鉛鉍・尖晶石・斜長石・斜方角閃石・
 斜方輝石・車骨鉍・四面銅鉍・針銀鉍・辰砂・針鉄鉍・自
 然銅・自然銀・自然白金・自然砒素・自然硫黄・自然金・
 自然鉄・硝石・束沸石・葱臭石・錐輝石・水晶・錫石・蛋
 白石・胆礬・淡紅銀鉍・炭酸塩燐灰石・単斜頑火輝石・単

C 外来語 (二〇七語)

斜輝石・単斜鉄珪石・天青石・鉄重石・鉄橄欖石・鉄珪
 石・透輝石・透閃石・雲母・葉蠟石・雄黄・柘榴石・紫蘇
 輝石・北投石・阿仁鉱

アデユリア・アクマイト・アナルサイム・アナルサイ
 ト・アナタース・アンチドラグイト・アノーサイト・アン
 トレライト・アラバンダイト・アラゴナイト・アレモンタ
 イト・アメバイト・アルマンディン・アルタイト・アタカ
 マイト・バイトウナイト・ベルツェリアナイト・ベエサイ
 ト・ベツビアナイト・ピスムシナイト・ブンゼナイト・プ
 ラポアナイト・ブライトハウプタイト・ブーランジヨライ
 ト・プロカンタイト・プロメライト・ブルツカイト・プ
 ルーサイト・チーモナイト・ダイアスポア・ダイジヨナイ
 ト・ダイヤモンド・ダンビユライト・ダトールライト・
 デイツカイト・エンスタタイト・エルバアイト・エスコライ
 ト・ドラバイト・ドロマイト・エジリン・エジリンオー
 ジャイト・エンディオブサイト・ファマチナイト・ファ
 ヤライト・フェロホーチノライト・フォロオーシャイト・フ
 ヨローライト・フェロシライト・フォルステライト・フ

ライバージャイト・ガライト・ゲルスドルファイト・ギブ
 サイト・グドマンダイト・グラファイト・グリーンナライ
 ト・グリーンノカイト・グローコードト・グロシユラー・ハ
 イアロシデライト・ハイドログロシユラー・ハイドロジン
 サイト・ハイパーシン・ハロイサイト・ハウエライト・ハ
 ウレイアイト・ハウスマンナイト・ヘルネサイト・ホルン
 ブレンド・ホートノライト・ヒューマイト・ヒューランダ
 イト・イリドスミン・イリジユム・イルメナイト・ジルコ
 ン・カドモセライト・カマサイト・カーナイト・カンクリ
 ナイト・カーノタイト・カオリン・カオリナイト・カレリ
 アナイト・カルカンサイト・カルシライト・カテイエライ
 ト・ケツティジャイト・コバルトベントライト・コペリ
 ン・コデーエライト・コンドロダイト・コランダム・コ
 ロラドアイト・コールマナイト・コロンバイト・コーサイ
 ト・クラウスタールライト・クリノエンスタタイト・クリノ
 ヒューマイト・クリノゾイサイト・クリソライト・クリソ
 タイル・クリストバライト・クロックマナイト・クロコア
 イト・クロリトイド・クトナホライト・マグヘマイト・マ
 グネサイト・マイククリン・マイククノライト・マンガンコ

ルンバイト・マンガンスピネル・モンガンタスタライト・
 マンスフィールダイト・マラカイト・メラノステイビア
 ン・メリライト・メタシンナバー・モナザイト・モンチセ
 ライト・モンチボナイト・モリプテナイト・ナクライト・
 ナトライト・ノントロナイト・ノルベルジャイト・オー
 ジャイト・オパール・オーピメント・オリゴクレース・
 オーリカルサイト・オルダマイト・オスミウム・オットレ
 ライト・パイロファナイト・パイロファイライト・パイロク
 ローアイト・パイロクロール・パイロクスマンジャイト・
 パイロープ・バイロステルプナイト・パンペリアイト・パ
 ラゴナイト・パラジウム・パラシンプレサイト・ペントラ
 ンダイト・ペリクレース・ペロプスカイトメビスタサイ
 ト・ポートランダイト・プラトネライト・プロトエンスタ
 タイト・ラブラドライト・ランメルスバージャイト・レピ
 ドクノサイト・リザダイト・ロードナイト・ロクサイト・
 ローソナイト・ローザサイト・ローゼイアイト・ルチル・
 ルゾナイト・リユーサイト・サファイリン・サイロメレー
 ン・サンマルチナイト・サーディン・サバナイト・サーラ
 イト・セレノライト・セレスタイト・セーリアナイト・セ

D 混種語 (一〇四語)

a (外来語十漢語) (一〇三語)

亜鉛スピネル・アクチノ閃石・アメス石・アンモニウム硝石・アンモニウム鉄明礬石・アルベゾン閃石・アルカリ長石・アルカリ角閃石・アルカリ輝石・バリウム長石・バリウム天青石・ベーム石・ベニト石・ベスプ石プロシヤン銅鉍・チタン鉄鉍・ドーブレー鉍・テュルレ鉍・エデン閃石・エジル輝石・フヨロヘデン輝石・フランクリン鉍・普通ホルンブレンド・含水コヘディエライトゲイキイ石・グ

リグマナイト・シンブレサイト・シルビン・シユライバーサイト・ソーダイト・ーコナイト・スチルブノメレーン・スフェーン・スコロダイト・スコール・スベリライト・スペサルティン・スピネル・スポジューメン・スタンナイト・ステアナイトメステイシヨバイト・スウエデンボルガイト・ターフェアイト・タイナイト・タンタライト・テフロアイト・ティンカルコナイト・トパーズ・トノデイマイト・ウバロバイト・ウルボスピネル・ウルフェナイト・ウルマナイト・ウルツァイト・ウスタイト・ワイカイト・ゼノタイム・ゾイサイト

リメン沸石・グリユネ閃石・ヘデン輝石・砒銅ウラン石・ホーランド鉍・ホルムクイスト閃石・方トリウム石・ヒューム石・インド石・灰チタン石・カミングトン閃石・カリ長石(カリウム長石とも)・カリ岩塩・カルノー石・カルシウム角閃石・カルシウム輝石・カトフォル閃石・ケルスト閃石・輝コバルト鉍・コバルト華・紅砒ニッケル鉍・硬マンガン鉍・高温型アルバイト・高温型サニディン・クロム鉄鉍・クロンステット石・マグネシオアルベゾン閃石・マグネシオリーベック閃石・モンガン重石・メタ燐銅ウラン石・水マンガン鉍・モリブデン鉛鉍・無水コヘディエライト・ナトリウム明礬石・ナトリウム鉄明礬石・ニッケル華・ニッケル鉄・オンファル輝石・パーガス閃石・バイロルース鉍・パラ珪灰石・パウエル石・ピジョン輝石・ラドラム鉄鉍・リーベック閃石・燐銅ウラン石・燐灰ウラン鉍・リシア輝石・リシア雲母・菱カドミウム鉍・菱コバルト鉍・緑マンガン鉍・菱マンガン鉍・青色性コペリン・閃ウラン鉍・セプテ緑泥石・シヤモス石・針ニッケル鉍・シノ石・自然アンチモニー・自然ビスマス・ソーダ沸石・ソーダ硝石・曹長石・スコレス沸石ストロンチウム

重晶石・ストロンチウム鉱・鉄エデン閃石・鉄
 ング閃石・鉄コロンバイト・鉄マンガン重石・鉄タンタラ
 イト・鉄トルコ石・鉄ツエル マク閃石・トムソン沸石・
 ツエルマク閃石・ヤコブス鉱・ヨハンセン輝石

b (和語十漢語)

なし

c (外来語十和語)

なし

d (和語十外来語十漢語)

一語

板^{いた}チタン石 (brookite) (注⑤)

改めて表を作成するまでもなく、八十五年前の『鉱物字彙』
 と比べて、和語名と漢語名が少なく、外来語名が極めて多い。

このことに関連して注目されるのは、索引で、和名、漢名、混
 種語名を掲げて空見出しとし、カタカナ名を見るように指示さ
 れているものである。この指示に従って、和名、漢名、混種語
 名を外來語名に変えると、全鉱物名の半分が外來語名となる。

以下の四十四語がその例である。

「霰石↓アラゴナイト」「薔薇輝石↓ロードナイト」「普通
 角閃石↓ホルンブレンド」「頑火輝石↓エンスタタイト」
 「白榴石↓リュウサイト」「玻璃長石↓サニデイン」「方珪

石↓クリストバライト」「方輝銅鉱↓ダイジエナイト」「板^{いた}
 チタン石↓ブルツカイト」「灰チタン石↓ペロプスカイ
 ト」「灰長石↓アノーサイト」「灰ほう石↓コールマナイ
 ト」「カリ岩塩↓シルビン」「霞石↓ネフェリン」「萇青石
 ↓コーデイライト」「輝水鉛鉱↓モリブデナイト」「鋼玉↓
 コランダム」「黄玉↓トパーズ」「硬マンガン鉱↓サイロメ
 レーン」「金剛石↓ダイヤモンド」「氷長石↓アデュラリ
 ア」「硬緑泥石↓クロリトイド」「苦灰石↓ドロマイト」
 「楔石↓スフェーン」「水礬土石↓ギブサイト」「水滑石↓
 ブルーサイト」「モナズ石↓モナサイト」「モリブデン鉛鉱
 ↓ウルフェナイトムライト」「鱗珪石↓トリディマイト」
 「リイア輝石↓スポジューメン」「緑塩銅鉱↓アタカマイ
 ト」「石墨↓ブラファイト」「石黄↓オーピメント」「尖晶
 石↓スピネル」「しそ輝石↓ハイパーシン」「曹長石↓アル
 バイト」「葱臭石↓スコロダイト」「錐輝石↓エジリン」
 「蛋白石↓オパール」「胆礬↓カルカンサイト」「単斜頑火
 輝石↓クリノフェロシライト」「天青石↓セレストタイト」
 「鉄橄欖石↓ファヤライト」「鉄珪石↓フェロシライト」
 「鱗鉄鉱↓レピドクロサイト」「葉蠟石↓バイロファイライ

ト」「雄黄↓オービメント」

3-2 『鉱物学』に使用されている漢語名について

ところで、塩澤氏は前掲論文の「まとめ」で次のように述べられている。

『鉱物字彙』の術語の基幹となる語基について、特に主力をなす漢語語基を取り上げて、造語要素としての機能を概観してきた。明治期における鉱物の術語は、1字と2字の漢語語基を基本的要素とし、その組合せによって成立しているため、各語基の意味と機能とを把握していれば、たとえば、鉱物の色彩、形状、成分と言った訳語の意味内容を理解出来る仕組みとなっている。訳語としては誠に適切なものであったと言えよう。(中略)

現代の鉱物用語と明治のそれとを比較すると、現代では、漢語を主流とする訳語が整理され、外国語をそのまま音訳して取入れたものが大勢を占めている。たとえば、次のようである。

バナスター石 ガノファイル石 モンモリオン石 サポー

石 トロイリ鉱 ベントラ ンド鉱 ヒーズルウッド鉱
バレイ鉱 ゼノタイム モナズ石 トリカルコ石 オ
ンフアス輝石

明治期の術語は、専門外の者が見ても意味内容を類推することが可能であったが、上述したような現代の鉱物用語は、皆目見当のつかないものばかりである。現在では最早や、専門術語は専門外の者には理解不能な外国語となつてしまったようである。

この文章が書かれたのは昭和五十六年であり、「現代の鉱物用語」には前節で調査した『鉱物学』の鉱物名も含まれていると思われるが、その『鉱物学』が書かれてから現在まで更に三十三年が経過している。『鉱物学』の著者は「なるべくヨーロッパの言葉に近いものへ向かつて、変化しつつある」と言い、その理由を次のように説明している(「まえがき」p.13)。

ヨーロッパの地質学・鉱物学は、江戸時代の末期から日本にさかんに移入されはじめた。今日使われている鉱物の和名の中の主なものは、それから1800年(明治33年)ごろまでの間につくられた。しかし、当時つくられた和名のなかには、他の方面ではほとんど使われないような特殊な漢字

を用いたものもあり、ちがう鉱物が全く同音である場合もあつて、今日の立場から見てもならずしも適當でない点がある。また、ヨーロッパの言葉で表わした鉱物名と全く無関係に和名をつくることは、記憶により多くの負担を課することになるので、なるべく少なくすることが望ましい。

このような理由から、鉱物の和名は近年、あまり特殊な漢字を用いないで、二つ以上が同音にならないように、なるべくヨーロッパの言葉に近いものへ向かつて、変化しつつある。たとえば、 Al_2O_3 という化学組成を持つ鉱物は、鋼玉(こうぎよく)とよばれていたが、これは字もむずかしく、硬玉や紅玉と同音でまぎらわしい。そこで最近は、英語名をカナで表わしたコランダムが広く使われるようになってゐる。

現在の状態を調査する適當な資料を本稿の筆者は探し得ないが、『鉱物学』に用いられている鉱物名を詳細に分析すると、おそらく『鉱物学』の著者が予想するような方向には変化してないものと思われる。というのは、外来語名の使用を志向する本書においてもなお用いられている漢語名には、外来語名はない特徴があり、その特徴によつて今後も用いられるだろう

と推測されるからである。

その特徴は塩澤氏が『鉱物字彙』で述べられているものであり、語基の意味と機能とを把握していれば、鉱物の色彩、形状、成分などが理解出来る仕組みとなつてゐるということである(注⑥)。以下、このことについて詳細に述べる。

『鉱物学』に用いられている漢語名には、中国本草学由来のもの、明治時代以降の鉱物学者による新造語とがある。前者は金・銀・銅・白金・砒・方解石・鶏冠石・水晶石・蛇紋石・金剛石・孔雀石・苦灰石・辰砂・電気石・鋼玉・黄玉・雄黄・石榴石・岩塩・水晶・錫石・蛋白石・硝石・石墨・十字石・石膏・橄欖石・石英・長石・滑石・雲母・礬石・簾灰石・輝石・翡翠・閃石・沸石・重石・珪石・褐石・練石・晶石・泥石・硼石・銅藍・硼砂・堇青石・天青石・蠟石・柱石などであるが、後者はこれらを基として、塩澤氏が指摘されているような語基を用いて造語されてゐるものである。次に『鉱物学』に用いられている漢語名を整理して掲げれば次のとおりである。

長石↓ 斜長石・準長石・氷長石・曹長石・玻璃長石・
 灰長石^か
 輝石↓ 翡翠輝石・透輝石・蔷薇輝石・錐輝石・頑火輝

石・単斜輝石・斜方輝石・準輝石・単斜頑火輝石

滑石↓

鉄鉱↓ 水滑石
白鉄鉱・赤鉄鉱・藍鉄鉱・菱鉄鉱・砒鉄鉱・磁鉄鉱・鏡鉄鉱・黄鉄鉱針鉄鉱・砒砒鉄鉱・磁硫

閃石↓ 藍閃石・角閃石・透閃石・直閃石・普通角閃石・斜方角閃石

沸石↓

中沸石・濁沸石・剥沸石・束沸石・方沸石輝石・菱沸石・重十字沸石灰十字沸石

沸石・重石↓

鉛重石・鉄重石・灰重石・毒重石

雲母↓ 白雲母・金雲母・黒雲母

礬石↓ 明礬石・銀鉄明礬石

簾石↓ 綠簾石・紅簾石・褐簾石・普通綠簾石

燐灰石↓ 炭酸塩燐灰石・塩素燐灰石・擬珪灰石・弗素燐灰石

珪石

鉄珪石・鱗珪石・方珪石・珪線石・珪褐石・単斜鉄珪石

晶石↓

藍晶石・重晶石・尖晶石

泥石↓ 硬緑泥石・緑泥石

礮石↓ 灰礮石・方礮石

橄欖石↓ 鉄橄欖石

石英↓ 高温型石英

混種語も漢語語基の一つが外来語に代わっただけで、同様の造語法によって造られているものである。外来語の部分を「―」で示すと、例えば、次のようになる。

(外来語が前項にくるもの)

―閃石(14例)・―石(12例)・―輝石(9例)・―鉱
(7例)・―沸石(4例)・―鉄鉱(3例)・―長石(3

例)・―硝石(2例)・―華(2例)・―雲母(以下1例)・―青石・―岩塩・―明礬石・―重石・―鉄・―銅
 鉱・―鉛鉱・―角閃石・―鉄明礬石・―珪灰石・―緑泥石・―重晶石

(外来語が後項にくるもの)

高温型―(2例)・自然―(2例)・鉄―(2例)・亜鉛―(以下1例)・無水―・普通―・含水―・青色性―
 (外来語が中項にくるもの)

菱―鉱・砒銅―石・方―石・灰―石・輝―鉱・紅砒―
 鉱・硬―鉱・―燐銅―石・水―鉱・燐銅―石・燐灰―
 鉱・緑―鉱・閃―鉱・針―鉱・鉄―閃石・鉄―閃石・鉄
 ―重石・鉄―石・鉄―閃石(以上各1例)

以上のように造語力の高い漢語名また混種語名は、現在も用いられているようであり(注⑦)、今後も用いられ続けられるものと思われる。

なお、和語名には古来からの名称である「あられいし(霞石)」「ほたるいし(螢石)」「かすみいし(霞石)」「くさびいし(楔石)」と、明治以降の新造語である「小藤石(こどうせき)」「神保石(じんぼうせき)」が本書では見られるが、今後、

日本人によつて発見される鉱物名は後者のように日本語の人名や地名を用いて命名されるものと思われる。

4 『鉱物学』に見られる交ぜ書きの問題

ところで、『鉱物学』では、和語名は「あられ石」「ほたる石」「かすみ石」「くさび石」のようにひらがな書きされている。漢語名の中にも「ばら輝石」「るり長石」「ひすい輝石」「かんらん石」「くじやく石」「ざくろ石」「しそ輝石」のように一部をひらがな書きしているものがある。これらは既に国語化している漢語であり、語形を示せば意味が理解できるものである。したがって、これらをひらがな書きするかカタカナ書きにするか漢字表記にするかは好みの問題と言ってもよい。しかし、次のように、漢語語基の一部が仮名書きされ、一つの漢語名が交ぜ書き表記になっているものがある。

「弗」ふっ素りん灰石

「燐」りん灰石・りん灰ウラン石・ふっ素りん灰石・炭酸塩
 りん灰石・塩素りん灰石・水酸化りん灰石・りん銅ウ
 ラン石・メタりん銅ウラン石

「簾」 褐れん石・紅れん石・緑れん石・普通緑れん石

「頑」 がん火輝石・単斜がん火輝石

「簪」 ばん石・明ばん石・鉄明ばん石・銀鉄明ばん石・胆ばん・アンモニウム鉄明ばん石・水ばん土石・ナトリウム明ばん石・ナトリウム鉄明ばん石

「砒」 ひ鉄鉱・ひ四面銅鉱・硫ひ銅鉱・硫ひ鉄鉱・自然ひ素・ひ銅ウラン石・紅ひニッケル鉱

「珪」 方けい石・けい褐石・けい灰石・擬けい灰石・鱗けい石・単斜鉄けい石・鉄けい石・パラけい灰石・けい線石

「蠟」 葉ろう石

「礬」 ほう酸石・ほう砂・灰ほう石・方ほう石

「針」 はり長石

「砒」 はり長石

「珪」 はり長石

「蠟」 はり長石

「礬」 はり長石

「砒」 はり長石

「珪」 はり長石

「蠟」 はり長石

「礬」 はり長石

「砒」 はり長石

からであろうと推測せざるをえない。先に引用した『鉱物学』

の著者の文章に、明治の三十三年ごろまでの間につくられた鉱物名のなかには、他の方面ではほとんど使われないような特殊な漢字を用いたものがあると批判している内容があった。

「泉客爾」^{ニツケル}「汞」^{みずがね}「瀕」^{みずがね}「吟黄銅」^{ニツケル}「黝銅鉱」などの漢字を指して

いるものと思われるが、こうした漢字を仮名にすることと今日の児童向けの本で「花こう岩」「石英せん緑岩」「はんれい岩」「かんらん岩」「ひん岩」「けつ岩」「れき岩」「角せん岩」など

と書かれることとは異なるはずである。しかし、鉱物学者たちがこのような変則的な表記を採り続けられれば、漢語名を用いる意味は失われ、鉱物の学名は外来語に置き換わることになるであろう。しかし、一般社会での鉱物名は依然として和名漢語名を用いるはずである。例えば霰石をアラゴナイト、玻璃長石をサンディン、灰長石をアノーサイトと言われても、鉱石に関心のない人にはそれが石であることすら分からないからである。

5 現在の一般書に見られる鉱物名

ただ、宝石は外来語名が用いられることが多いようである。

二九

かつては宝石もまた漢語名が多く用いられていた。例えば鈴木敏編『宝石誌』は、最も数多く宝石を取り上げて分類している。Klingeの説を次のように翻訳して紹介している（後の説明のために原名を判明する限りで記す）。

【正宝石】

第一等宝石

- 1 金剛石 Diamond
- 2 鋼玉石（紅宝石、藍寶石等を含む）
Corundum Ruby Saphire
- 3 金緑石 Chrysoberyl
- 4 尖晶石 Spinel

第二等宝石

- 5 ザルコン Zircon
- 6 緑柱石（綠寶石等を含む）
Beryl Emerald Aquamarine
- 7 黄宝石 Topaz
- 8 電気石 Tourmaline
- 9 柘榴石 Garnet
- 10 貴蛋白石 Precious Opal

第三等宝石

- 11 堇青石 Cordierite
- 12 ベスーブ石 Vesuvianite
- 13 橄欖石 Olivine
- 14 斧石 Axinite
- 15 藍晶石 Cyanite
- 16 十字石 Staurolite
- 17 紅柱石 Andalusite
- 18 空晶石 Chastolite
- 19 綠簾石 Epidote
- 20 土耳其石 Turquoise

【半宝石】

第四等宝石

- 21 石英 Quartz
- 甲。結晶せる石英
イ、水晶 Reck-Crystal
ロ、紫水晶 Amethyst
ハ、普通石英 Common Quartz
ニ、フラーズ Praze

ホ、砂金石	Aventurine	ロ、天河石	Amazonstone
ヘ、猫睛石	Cat's Eye	23 閃長石	Labradorite
ト、紅石英	Rose-Quartz	24 黒曜石	Obsidian
乙、珂(仏頭石)	Chalcedony	25 青金石	Lapis Lazuli
イ、珂	Chalcedony	26 藍方石	
ロ、瑪瑙	Agate	27 紫蘇輝石	
ハ、プラズマ	Plasma	28 透輝石	Diopside
ニ、血晶石	Bloodstone	29 螢石	Fluorite
ホ、碧玉	Jasper	30 琥珀	Amber
ヘ、緑珂	Chrysoptase	第五等宝石	
丙、蛋白石	Opal	31 ゼエツト	Jet
イ、火蛋白石	Fire Opal	32 軟玉	Nephrite
ロ、斑蛋白石	Harlequin Opal	33 蛇紋石	Serpentine
ハ、水透蛋白石、		34 蠟石	
ニ、盲蛋白石		35 凍石	
ホ、碧玉蛋白石		36 壺石	
ヘ、普通蛋白石	Common Opal	37 異剥石	
22 長石	Feldspar	38 古銅石	
イ、水長石	Adularia	39 閃光石	Schiller sper

40	繊維状灰石(方解石、及び霰石)	Calcite, Alagonite
41	大理石	Marble
42	繊維灰石(石膏)	Satin-spar
43	雪石膏	
44	石碧(孔雀石)	Malacite
45	黄鉄鉱	Iron-pyrites
46	菱錳鉱	Smithsonite
47	輝鉄鉱	Hematite
48	葡萄石	Prehnite
49	脂光石	Elaeolite
50	曹達沸石	Natrolite
51	熔岩	Lava
52	石英角礫岩	Quartz-breccia
53	リシア雲母	

これらのうち、1ダイヤモンド(金剛石)、2ルビー(紅玉・紅寶石)サファイア(青玉・藍寶石)、6エメラルド(緑柱石・翠玉・緑寶石)、7トパーズ(黄寶石・黄玉)、9ガーネット(石榴石)、10オパール(貴蛋白石)、21(イ)・クリスタル

(水晶)、21(ロ)・アメシスト(紫水晶)、21(ケ)キャッツ・アイ(猫睛石)、25ラピス・ラズリ(青金石・瑠璃)などは比較的早くから外来語名が用いられているが、近年では4スピネル(尖晶石)、6ベリル(緑柱石)、22(ロ)アマゾン・ストーン(天河石)、44マラカイト(石碧・孔雀石)45パイライト(黄鉄鉱)、50パラゴナイト(曹達沸石)なども用いられるようになり、さらに、ムーン・ストーン(月長石)、タイガー・アイ(虎睛石)、オニキスなどの鉱物名も用いられている。最近見かけるようになった鉱物の原石を販売する店では、翡翠、水晶、瑪瑙の漢語名は用いられることもあるが、ほぼ全ての宝石は外国語名を用いている。これは外国語の方が高級感や、その石を持つと授かると宣伝されている効能を、より能く醸し出せるということもあるであろう。

注① 森本信男・砂川一郎・都城秋穂著『鉱物学』（昭和五十年 [1975] 岩波書店刊。pp. 375-76）

注② 鉱物名だけを語種別に掲げる。

A 和語（一二三語）

霰石・蛭石・燧石・螢石・螢石・岩塩・霞石・豆石・綠霞石・
端石・鳴り塩・糠石・扇石・斧石

B 漢語（四一八語）

亜鉛・亜鉛華・亜鉛鉍・亜鉛乳石・亜鉛鉄鉍・亜鉛黝銅
鉍・安黝銅鉍・板温石・硼砂・芒硝・葡萄石・葡萄閃
石・血玉髓・地瀝青・地蠟・膜膜石・長石・濁沸石・団
鉄鉍・泥鉄鉍・電気石・銅沸石・銅華・紅輝石・銅黒・
毒石・毒砂・毒鉄鉍・銅乳石・銅藍・銅綠礬・銅針鉍・
銅雲母・吟銅鉍・吟鉛鉍・吟鉛鍾乳・鉛・塩・塩銅鉍・
塩化鉛・鉛重石・鉛紺石・鉛黄・鉛丹・鉞石・輻石・糞
化石・沸石・普通輝石・鵝管石・頑火石・玄武碧石・月
長石・銀・銀毒砂・偽燐灰石・偽青石・魚眼石・玉滴
石・玉髓・白鉛鉍・白閃石・白鉄鉍・白雲母・白雲石・
礬土石・礬楮土・瑠璃長石・針鉍・針棍狀鉍・針碧礬・
針鉄鉍・葉石炭・葉碧礬・葉石炭・碧玉・砒・砒安黝銅

鉍・砒銅鉍・砒毒砂・砒華・砒黝銅鉍・方亜鉛鉍・方安
鉍・方鉛鉍・方沸石・方解石・硼酸灰・硼砂・硼砂灰・
方黝石・百部根石・氷長石・異剝石。異極鉍・溢晶鉍・
岩塩・硫黄・柘榴石・蛇紋石・字形花崗岩・靱皮石炭・
磁黄鉄鉍・地瀝青・地蠟・磁鉄鉍・城址大理石・城址瑪
瑙・重長石・重方解石・重十字石・樹脂石・重石・重硝
石・重天青石・重雲母・重字雲母・灰長石・灰泥石・灰
沸石・灰十字石・灰華・介褐炭・塊黒炭・灰硝石・灰曹
長石・灰鉄柘榴・灰字雲母・光輝石・角鉛鉍・角銀・角
閃鉍・甘末・橄欖石・肝水銀・肝臟亜鉛・肝鉄鉍・肝臟
水砂・滑石・火蛋白石・褐炭・褐鉄鉍・褐鉛鉍・褐重青
石・褐菱鉍・褐硫塩・渴雲母・褐鉄鉍・硅銅鉍・硅灰鉄
鉍・鷄冠石・珪孔雀石・珪乳石・珪線石・絹布石・血
石・輝鉛安鉍・輝鉛砒鉍・輝沸石・貴柘榴石・貴橄欖
石・輝黒炭・金毛鉍・金・金紅石・金紅砂・金緑玉・金
青輝玉・萐青石・金雲母・輝石・輝蒼鉛鉍・輝鉄鉍・紅
亜鉛鉍・紅柱石・紅電気石・古銅石・紅鉛鉍・硬玉・銅
玉石・琥珀・皓礬・紅宝玉・紅霞石・黒地瀝青・黒鉛
鉍・黒簾石・黒楮石・黒辰石・黒晶石・黒炭・黒雲母・

金剛石・紺石・紅簾石・冰・硬碧泥土・紅柘榴・硬石
 膏・紅柘榴石・骨石・紅雲母・苦土橄欖石・苦土磁鉄・苦
 土明礬・苦土雲母・孔雀石・孔雀鍾乳・柘榴・空晶石・
 瑪瑙・蜜蠟柱石・餅石炭・毛塩・模樹鉍・毛輝石・木化
 石・木蛋白石・毛閃石・無焰炭・明礬石・鉛・鉛重石・
 軟玉・日長石・肉紅玉髓・菲角閃石・濃紅銀鉍・濃綠玉
 髓・乳石英・黃長石・黃銅鉍・黃鉛鉍・黃玉・黃柘榴
 石・黃血石・黃輝泡石・黃榴石・黃鉄華・黃柘榴・雷柘
 石・螺旋銀鉍・藍銅鉍・藍方石・卵狀鉄鉍・藍光石英・
 卵石・藍閃石・藍晶石・藍鉄鉍・瀝青炭・簾黃玉・燐
 銅・燐銅鉍・燐礬鉍・燐灰石・燐苦土鉍・磷石英・磷石
 灰・磷石膏・六方十二面柘榴・蠟石炭・蠟石炭・蠟石
 璃・菱亜鉛鉍・菱亜鉛鉄鉍・綠礬・綠礬鍾乳・綠柱玉・
 菱苦土石・綠銅鉍・綠泥土・綠銅雲母・綠塩同項・綠玉
 髓・綠玉・綠綠色石・綠螢石・綠萼蒼石・綠輝石・綠簾
 石・綠石英・綠閃石・綠石榴石・硫銀鉍・硫砒鉛鉍・粒
 狀輝石・菱鉄鉍・硫銅鉛鉍・硫銅銀鉍・硫銅鉍・硫酸鉛
 鉍・硫酸銅鉍・硫水鉛鉍・細根狀石・正長石・青鉛鉍・
 青玉・正方柘榴・青燐鉍・青鉄石・星葉石・石墨（黑
 鉛）・赤銅鉍・石英・赤沸石・赤礬・石筆石・石絨・石
 綿・石鍾乳・石炭・赤鉄鉍・石髓・石灰芒硝・石灰長
 石・石灰石・石鹼石・石膏・纖維重硝石・纖維黑炭・纖
 維菱苦土石・纖維石英・纖維石灰・纖維石膏・閃光石・
 斜長石・斜方沸石・斜十字石・砂金鹼石・砂金石・車骨
 鉍・錫砂・舍利塩・試金石・脂光石・縞碧玉・縞瑪瑙・
 真珠滴玉・真珠雲母・針鉍・辰砂・針鉄鉍・白輝石・白
 温石・白雲母・紙炭・薔薇輝石・灯黒炭・硝石・沼鉄・
 臭塩銀・蓆酸鉄・臭石英・蒼鉛華・粗白金・鎗狀白鉄・
 束沸石・葱臭石・水鉛鉛鉍・水鉛華・水銀・水白鉛石・
 水白鉄鉍・水白雲母・翠礬・水灰長石・水滑石・錐輝
 石・翠簾石・水菱苦土鉍・水硫酸銅・水晶・砂石炭・
 錫・卓石・沢鉄・胆礬・蛋白碧玉・蛋白石・淡紅銀鉍・
 单硫鉄鉍・炭酸曹灰・炭鉄鉍・鉄灰菱鉍・天青石・鉄・
 鉄白金・鉄橄欖・鉄橄欖石・鉄瀝青・鉄燐灰石・鉄綠泥
 石・鉄石英・鉄柘榴石・鉄蛋白石・鉄雲母・鉄黝銅鉍・陶
 碧玉・透角閃石・透萼青石・透輝石・橙黃石・雲母・沃
 土銀・陽起石・葉石炭・葉炭・黝銅鉍・黝方石・黝輝
 石・硫黄（石黄）・黝簾石・黝石髓・柘榴石・雜鹼石

*以下、外来語名(英語・ドイツ語)また外来語を含むものは原語を併せて掲げるが、語形の近いものを優先して示す。

C 外来語(八語)

安質母^{アンキモ} (Antimony)・ベスビアン (Vesuvianite)・ピスマス (Bismuth)・ジルロン (Zircon)・ロンドロゼット (Chondrodite)・メアシャーム (Meersaam)・スカポリット (Scapolite)・ウルフラム (Welframite)

D 混種語(一三九語)

a (外来語十漢語)(一〇六語)

亜鉛スピネル (Zinc Spinel)・圧起越歴^{えれき} (Piezoelectricity)・アマゾン石 (Amazon-ston)・アンキリア明礬 (Ammonia-Alum)・安質母銀鉱^{アンキモ} (Antimon-silidery)・安質母華 (AmmonyBloom)・安硫ニツケル鉱 (Antimon-nickelglanz)・アストラカン石^{キョク} (Astrakanite)・バナジウム雲母 (Vanadia Mica)・板^{イタ}チタン石 (brookite)・チタン鉄砂 (Menaccanite)・銅満俺^{マンガン}鉱 (Kupfermanganerz)・銅ウラン雲母 (Coper Uranite)・銀テルル (Hessite)・白金イリ

ジウム (Platinaridium)・砒安質母尼 (Allmonite)・砒コバルト鉱 (Smalite)・砒ニッケル鉱 (Chloanthite)・砒硫ニッケル鉱 (Gersdorffite)・方コバルト鉱 (Skutterudite)・方曹達石^{ソウダ} (Sodalite)・風信子石 (Hyacinth)・カイニト石 (Cainite)・灰スポカリト (Meionite)・加里長石^{カリ} (Kalifeldspath)・加里十字石 (Kaliharmotom)・加里明礬 (Kali-Alum)・加里石塩 (Sylvine)・褐満俺石 (Braun Spar)・褐スピネル (Picotite)・輝安質母銀鉱 (Myargyrite)・輝安質母鉱 (Stibnite)・輝コバルト鉱 (Cobalite)・コバルト華 (Cobalt Bloom)・紅砒ニッケル鉱 (Copper Nickel)・硬満俺鉱 (Psilomelane)・紅ニッケル鉱 (Copper Nickel)・クローム碧泥石 (Chromium-chlorite)・クローム鉄鉱 (Chromite)・クローム雲母 (Fuchsite)・黒スピネル (Pleonast)・黒ヂルロン (Malaccon)・満俺銅 (Crednerite)・満俺礬 (Mangan Viriol)・軟満俺鉱 (Welchmanganerz)・ニッケル華 (Annabergite)・パラジウム金 (Palladiumgold)・ライン鉱 (Reinite)・瀝青ウラン (Uranite)・稜コバル

ト鉱 (Cobalt Spar)・緑ニッケル鉱 (T'exaite)・菱満
 俺鉱 (Mangan Spar)・硫安質母鉛鉱 (**Antimon-
 bleibende**)・硫安質母銀鉱 (Stephanite)・硫安質母
 酸鉱 (Pyrosbite)・硫銅安質母鉱 (Chalcositbite)・
 硫鉛安質母鉱 (Jamesonite)・硫砒ニッケル鉱
 (Gersdorffite)・硫カドミウム鉱 (Greenockite)・
 硫ロバルト鉱 (Linnete)・硫満俺銅 (**Mangan-
 blende**)・硫酸加里鉱 (**Kaliumsulfat**)・サーラ石
 (Salite)・赤ニッケル鉱 (Cpper-nickel)・繊維メル
 シヤーム (Sapioite)・セレーン鉛銅 (**Selen-
 bleikupfer**)・セレーン鉛鉱 (**Selenblei**)・セレーン
 銀鉱 (**Selensilber**)・セレーン硫黄 (**Selen-
 schwefel**)・セレーン水銀 (**Selenqueckalber**)・
 セール簾石 (Orthite)・セール石 (Cerite)・針状テ
 ルル (Sylvanite)・白チタン (Titanomorphite)・曹
 達長石 (Albite)・ンータ沸石 (Pectolite)・曹達角閃
 石 (Actyedsomite)・曹達加里長石 (Mischocline)・曹
 達輝石 (Aegerite)・曹達明礬 (Soda-Alum)・曹達正
 長石 (Soda-Orthoclase)・曹達硝石 (Soda-Nitre)・曹

達長石 (Albite)・曹達雲母 (Paragonite)・曹長石
 (Albite)・曹灰長石 (Soda-lime-feldsper)・曹灰鉱
 (Gay-Lussite)・曹灰石 (Natroborecalcite)・水満俺
 鉱 (manganite)・翠ニッケル (Nickelsmaragd)・ス
 ピネル (Spinel)・ストロンシユム灰石
 (Strontianocalcite)・ストロンシユム鉱
 (Strontianite)・テルル鉛鉱 (**Tellurblei**)・テルル銀
 (**Tellursilber**)・鉄スビネル (Hercynite)・チタン磁
 鉄鉱 (Titanic Magnetite)・チタン鉄鉱 (Titanic
 Iron)・土耳其石 (Turquois)・ウラン礬 (Uranium-
 Vitriol)・ウラン華 (Uran Ochre)・ウラン雲母
 (**Uranglimmer**)・ウラン石 (Uralite)・ウルフラム華
 (Wolfram Ochre)・葉テルル鉱 (Nagyagite)

b (和語十漢語) (三〇語)

赤縞瑪瑙・泡蒼鉛・針綠礬・針鉄鉱・葉綠礬・葉石
 炭・火蛋白石・瓦銅鉱・苔瑪瑙・絹雲母・雲瑪瑙・
 黒電気石・黒橄欖石・黒輝石・黒金剛石・黒石灰・黒
 雲母・黒黝銅鉱・黒柘榴石・黒水晶・煙水晶・斑瑪
 瑙・盲蛋白石・綠霞石・紫水晶・膠石炭・綠霞石・

銹蛋白石・珊瑚霰石・山石鹼

c (外来語十和語) (一語)

針ニッケル (Millerite)

d (和語十外来語十漢語) (一語)

針テルル鉱 (Sylvanite)

注③ 「華」もまたこれに含まれる。亜鉛華・銅華・砒華・灰

華・黄鉄華・蒼鉛華・水鉛華・安質母華・コバルト華・ニッケル華・ウラン華・ウラニウム華の用例がある。

「華」は奇異な形のことを言う。例えば石灰華(『鉱物字彙』には見えない)について横山又次郎著『鉱物学簡易教科書』(明治二十三年)は「石灰水が洞穴の側壁を流れて、

石灰を沈殿させる。その形が時に奇異なることがある。これを「石灰華」と呼ぶ」とある。

注④ 「安質母」の略である「安」や「曹達」の略の「曹」も

ここに入る。

注⑤ 『鉱物字彙』ではバンチタンであった。

注⑥ この特徴は明治大正時代の鉱物学者たちには常識であった。例えば横山又次郎著『鉱物学簡易教科書』(明治二十

三年刊)に、

亜種の区別は、結晶においては、その色もしくは純濁によって、集合体においては、その組織による。亜種の名は、鉱物名に形容的辞語を冠して区別することあり。例えば鉄維石膏、粒状石膏のごとし。

とあり (p.36)、鈴木敏編『玉石誌』(大正五年刊)にも、

鉱物学上の知識未だ発達せざる其昔より鍾愛せられしを以て専ら其色彩に因み、同一の鋼玉石に種々の名称を附せり。便ち其紅色を帯ぶるものを紅寶石(一名紅玉)と云ひ、青色を呈するものを藍寶石(一名青玉)と称せり。

其他带黄绿色を東邦黄玉石 Oriental Topaz 带绿色を東邦绿宝石 Oriental Emerald 带黄绿色を東邦贵橄欖石 Oriental Chrysolite 带淡青绿色を東邦水绿宝石 Oriental Aquamarine 带紫色を東邦紫水晶 Oriental Amethyst 無色を白藍宝石 Leuco-sapphire と云へり。之を要するに鋼玉石の美色あるものは凡て貴鋼玉石 Noble Corundum と称へ、寶石として貴まれ、(下略)と見える (p.180)。すなわち、右の説明によれば、寶石名は次のような語構成になっているのである。

青色 純青色 ↓ 藍寶石(一名青玉) Sapphire

淡青色 ↓ 東邦水綠寶石 Oriental Aquamarine

紅色 純紅色 ↓ 紅寶石(一名紅玉) Ruby

紫色 ↓ 東邦紫水晶 Oriental Amethyst

綠色 純綠色 ↓ 東邦綠寶石 Oriental Emerald

黄色 黄色 ↓ 東邦黃寶石 Oriental Topaz

無色 無色 ↓ 白藍寶石 Leuco-sapphire

注⑦ 寺島靖夫著『探検！日本の鉱物』(ポプラ社2011刊)

は一般人向けの鉱物関係の教養書であるが、用いられている鉱物名で外来語名は、既に日本語として定着しているもの(ダイヤモンド、トパズ、オパール、コランダム、ルチル、ゼノタイム、ジルコン)以外には、混種語名の中にテルル、ベルチエ、スピネル、チタン、クリストバル、マンガン、コロンブ、フェルグソン、プロシヤン、モナズ、ミメット、ウラン、ブラウン、ダトー、ベスプ、リチア、パイロクスが見られるだけである。

本書に見られる鉱物名を本書に従って化学組成で分類した鉱石名を示す。

元素鉱物

石墨・ダイヤモンド・自然硫黄・自然テルル・

自然砒・自然蒼鉛・自然銅・自然銀・自然金・水銀

硫化鉱物

斑銅鉱・針銀鉱・閃亜鉛鉱・黄銅鉱・砒銅鉱・

磁硫鉄鉱・方鉛鉱・辰砂・輝安鉱・輝水鉛鉱・

黄鉄鉱・硫砒鉄鉱・鶏冠石・雄黄・四面銅鉱・ベル

チエ鉱

酸化鉱物

赤銅鉱・苦土スピネル・磁鉄鉱・コランダム・

赤鉄鉱・チタン鉄鉱・石英・鱗珪石・クリストバル

石・オパール・二酸化マンガン鉱・ルチル・銳錐石・板

チタン石・錫石・鉄重石・コロンブ石・フェルグソン

石・針鉄鉱

ハロゲン化鉱物

螢石

炭酸塩鉱物

菱苦土石・方解石・苦灰石・菱マンガン鉱・霏石・白鉛鉱・藍銅鉱・孔雀石・木村石

硫酸塩鉱物

硬石膏・天青石・重晶石・硫酸鉛鉱・プロシヤン銅鉱・石膏

タングステン酸塩鉱物

灰重石

磷酸塩・砒酸塩・バナジン酸塩鉱物

ゼノタイム・モナズ石・燐灰石・緑鉛鉱・ミメツト鉱・褐鉛鉱・藍鉄鉱・燐灰ウラン石・燐銅ウラン石

珪酸塩鉱物

珪亜鉛鉱・苦土カンラン石・鉄カンラン石・鉄礬サクロ石・マンガン礬サクロ石・灰礬サクロ石・灰鉄サクロ石・ジルコン・珪線石・紅柱石・藍晶石・十字石・トバズ・ブラウン鉱・チタン石・ダトー石・異極鉱・斧石・珪灰鉄鉱・斜灰礬石・緑礬石・紅礬石・褐礬石・ベスブ石・緑柱石・董青石・リチア電気石・鉄電気石・頑火輝石・透輝石・灰鉄輝石・普通輝石

ヒスイ輝石・透閃石・緑閃石・普通角閃石・珪灰石・鈴木石・バラ輝石・パイロクスマンガン石・魚眼石・滑石・白雲母・黒雲母・リチア雲母・緑泥岩・珪孔雀石・蛇紋石・カリ長石・曹長石・灰曹長石・中性長石・曹灰長石・亜灰長石・灰長石・柱石・湯河原沸石・輝沸石・東沸石・菱沸石

